

ハラビロトンボ

Lyriothemis pachygastra



< 生物の写真 >



< 環境写真 >

分 類 群	魚 類	貝類・甲殻類	爬虫類・両生類	昆虫類					
種の特性	絶滅危惧種	危急種	希少種	外来種	指標種				
分布地域 (農政局単位)	北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州	沖縄

【分布】

北海道、本州、四国、九州に分布する。北海道では函館周辺、また東北地方でも産地が限定されている。離島では佐渡島、淡路島、対馬、五島列島の福江島、天草諸島、種子島などに分布する。

【名前の由来】

腹部が押しつぶされたように幅広くなっていることから、「腹が広い」トンボの意。

【形態的な特徴】

体長 32mm（腹長 雄:20～24mm、雌:22～25mm。後翅長 雄:23～27mm、雌:25～29mm）ほどで、腹部が上下から押しつぶされたように扁平で、太短いトンボ。未成熟個体は雌雄ともに黄色地に黒斑を持つが、雄は成熟するにつれて黒化し、腹部背面に蒼白色の粉を吹く。

幼虫は体長 15～17mm（頭幅 5mm）ほどで、体色が黄褐色から汚褐色をした体表のザラザラした小さなヤゴ。泥を付着させていることが多い。

【生態的な特徴】

成虫は4月から9月頃に見られる。幼虫はおもに夜間、[挺水植物](#)の茎や葉の裏などに[定位](#)して羽化する。朝方に飛び立つが、未成熟個体も羽化水域からあまり離れず付近の開けた草地で生活する。成熟した雄は草地の間の小さな水域の縁などに縄張りを形成し、雌を見つけて連結、交尾をする。交尾後の雌は単独で、ごく浅い水域の[挺水植物](#)の際や、浮遊物が水面を漂っているような場所に[連続打水産卵](#)をする。

【生息環境】

おもに平地や丘陵地の[挺水植物](#)がよく繁茂した池沼や湿原、腐植栄養型の沼沢地や湿地などの浅い水域に生息する。幼虫は[挺水植物](#)の根際や植物性沈積物の下、柔らかい泥の中などに潜む。

【生息状況】

かつては湿性の草地に多数見られたが、本種が好んで生息する谷地の放棄水田や、湿性植物の生えた浅い池沼などの湿地環境が減少し、生息地や個体数を減らしている。

【生態系保全のための留意点】

本種が好む放棄水田や水はけの悪い湿田や、谷地田の上流にある湿地などは、放置されたままであるといずれは乾燥してしまう。しかし、ビオトープとして位置づけること等によって、このような生息空間を維持・管理することが重要である。